2023-7-17

札幌グランドホテル滞在の旅(6 月 27 日～7 月 3 日)～その 1～

山本 雅晴

今から１４年前の 2009 年の 6 月下旬の 6 日間で北海道の主な支庁にある美術館や文化施設を訪れたことがある。これを含めて北海道には約 10 回行ったことがあるが、あちこちを慌ただしく訪問する旅ばかりであった。今回、JTB で表題のようなツアー募集が新聞広告にあり、3 ヶ月くらい前に申し込んだ。内容的には深みはないし、文化的な内容も乏しく、単なる物見遊山である。国の旅行支援と地方からのクーポンという税金の無駄使いで、ごめんなさい！　一応、今回の旅行の日程と行程を簡単に記述し、写真を添付します。

1 日目：6 月 27 日（火）　羽田空港 13:00 ✈️　新千歳空港 14:35　ANA65 便は何年か前のデビュー時にトラブルを起こした燃費向上の新鋭機 B787 で小生は初めてである。各座席の窓からの光を各自でコントロールできるようになっていた。無事到着し、各自が札幌のグランドホテルにチェックインすることになっている。薄曇りで気温も高くなかったので、キャリーバッグを押してＪＲ札幌駅から約 600m 歩いて 16 時過ぎにホテルに着いた。宿泊 6 日分のクーポンを受け取り、早速ホテルから近くのレンガテラス近くのイタリアンの夕食代とした。女房は腰痛の鎮痛剤を服用しての旅行で今日は何とかしのげた。今日の歩行距離は約 6 km。

2 日目：6 月 28 日（水）本日は本ツアーのエクスカーションでホテルからバスで 8：50 発 小樽で 10～14 時自由散策・昼食と指定のカフェでのアフタヌーン・ティ付。小樽の北一ガラスの展示場や運河・倉庫を見て寿司屋で昼食。その後、有名なカフェ？でアフタヌーン・ティ。小樽の街もコロナ禍でここ 2 年間は散々で、以前は 400 万人/年の観光客も皆無に等しかったらしい。今年は台湾・韓国・香港など東南アジアからの観光客も増えているようだ。北一ガラスをはじめとするガラス加工製品と寿司屋や飲食店が際立って多い。ニトリのオーナーが創設した「似鳥美術館」を見たかったが、第 4 水曜日は休館であった。小生にはあまり魅力のある街ではなかった。

→→ 札幌の羊ヶ丘展望台へ、ここは初めてで天候も回復し、心地よい時間を過ごすことができた。ホテル帰着は 16：30。今回のツアー唯一夕食付でこのホテル伝統の洋食セットを食した。**今日の歩行距離： 10 km**

1.　札幌 JR 駅前

2.　札幌グランドホテル

3.　小樽運河

4.小樽・北一ガラス

5.札幌・羊ヶ丘展望台・クラーク像

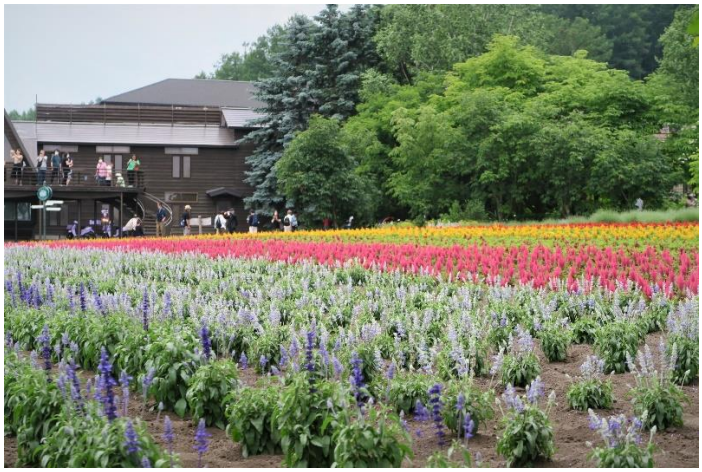
2023-7-17

札幌グランドホテル滞在の旅(6 月 27 日～7 月 3 日)～その 2～

山本 雅晴

3 日目 : 6 月 29 日（木） 本日は本ツアーの二つ目のやや遠出のエクスカーションでホテルからバスで 8 時に出発した。参加は自由だが、本ツアーの２８名全員が参加した。人気の富良野のラベンダー畑や美瑛・白髭の滝・青い池を巡る約 350ｋｍ/10 時間の旅である。途中トイレ休憩を取り、富良野のファーム富田に着いたのは 11 時前で約 1 時間ラベンダー畑などを見学した。ここには約 30 年前の 1994-7-4 にツアーで訪れている。当時は規模も小さく人出も少なかったが、今回はかなり多く、駐車場も満杯に近かった。「ファーム富田」は入場料・駐車場は無料とのこと。創立者の富田忠雄氏(1932~2015)はラベンダー生産の最盛期と没落を経験した。1972 年頃には合成香料の開発とラベンダーなどの香料の貿易自由化で日本のラベンダーは壊滅した。富田忠雄はラベンダーを捨てきれず畑一面のみ残して思案にくれていた。1976 年に国鉄のカレンダーに写真が掲載され、写真家らが訪れるようになった。1981 年頃にテレビドラマ「北の国から」の撮影がここで行われ、一般観光客も訪れ始めた。ラベンダー畑を観光に生かせるのではないかという感触をつかみ、1983 年に有限会社「ファーム富田」を設立した。ラベンダーの花の開花時期の多様化や他の花との組み合わせなどの努力で観光資源としての地位を確立した。自治体も冬季の観光客誘致のためスキー場の整備やワールド・カップの開催などで年間を通じて観光客が来てくれるようにした。ここ 2 年のコロナ禍を除き約 200 万人/年が富良野を訪れ、ファーム富田には春～秋に約 100 万人訪れる。ここも台湾・香港・韓国などの東南アジアの人に人気があるらしい。

6. ファーム富田の早咲きラベンダー畑

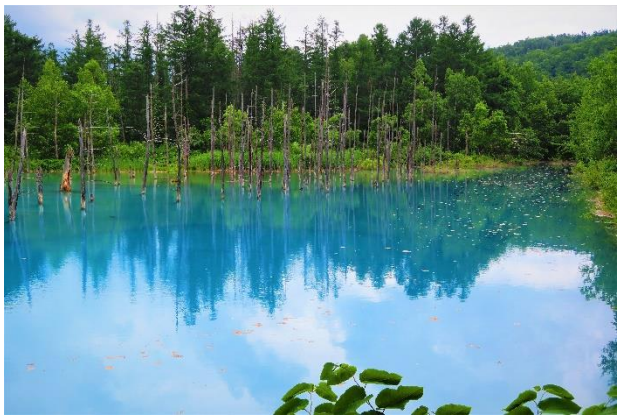


7. ファーム富田の花畑

美瑛・8.白髭の滝および 9.青い池：ここは割合最近になって観光化され、初めての訪問であった。青い池は十勝岳の噴火による泥流被害を防ぐため 1988～89 年にコンクリート・ブロックで堰堤を築いたところ上流の白金温泉の白髭の滝からの硫黄やアルミニウム成分がコロイド化して光を乱反射するため青く見えるらしい。偶然の産物だが、1998 年に写真家の高橋真澄氏の写真集、この写真を 2012 年にアップル社がパソコンの壁紙に採用して評判となり、観光地となった。大きな町の駐車場も最近完成したとのこと。 **本日の歩行距離：4.5 km**

8.

9.



2023-7-18

札幌グランドホテル滞在の旅(6 月 27 日～7 月 3 日)～その 3～

山本 雅晴

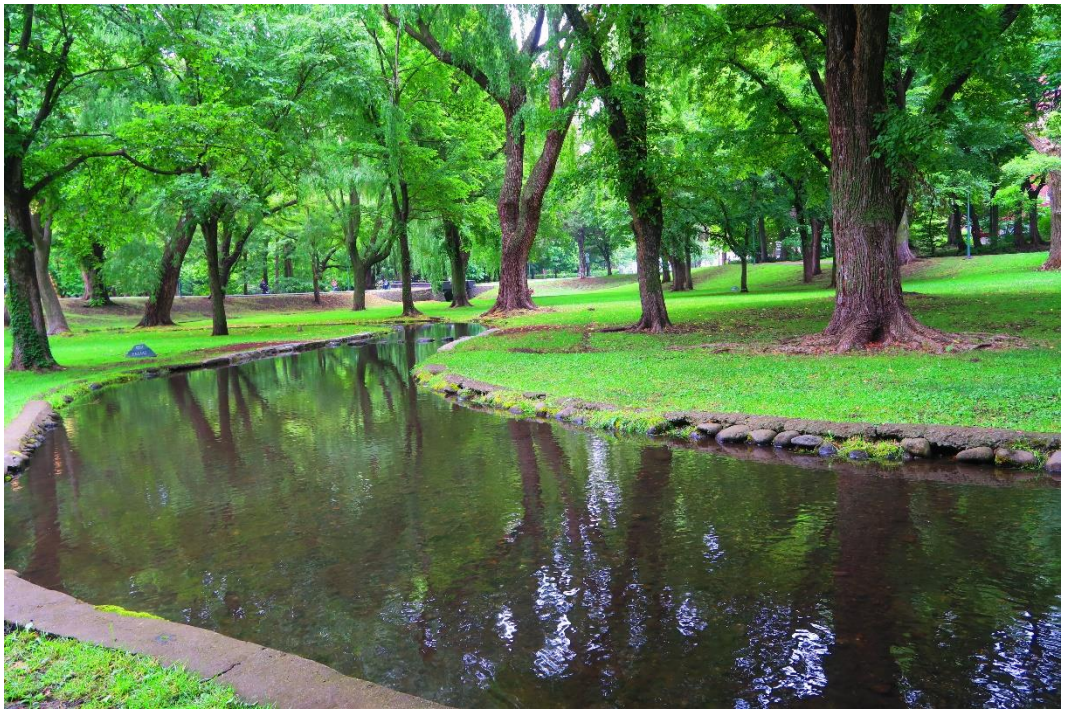
4 日目：6 月３０日（金） 本日からはその日の天候を見てホテル周辺と札幌市の公園などを気ままに歩いてまわることにした。JR 札幌駅から大通り公園までの南北約１ｋｍにわたって幅 50ｍほどの広い地下通路とその両側に各種の商店が立ち並びホテルからは地上に出なくても地下街に行ける。このことは今回初めて知った。

札幌散策 １： ① 時計台 ② 大通り公園・フラワーフェステルバル ③ 北大構内 **本日の歩行距離：11 km**

10. 朝日に映える時計台

11. 大通り公園のバラ園(佐藤忠良/若い女性像,TV 塔)

12. 北大・ポプラ並木



13. 北大構内の中央ローン

札幌グランドホテルや北大構内は今から 54 年前の 1969 年 5 月に初めて訪れた。その当時のことはあまり覚えていないが、今回は季節が 2 ヶ月くらい遅いためか植物の緑が濃く鮮やかに見えた。

夕食は 1 日目と同じレンガテラスのエノテカ(イタリアン)で食べた。週末とボーナス？のためか満員だった。

2023-7-18

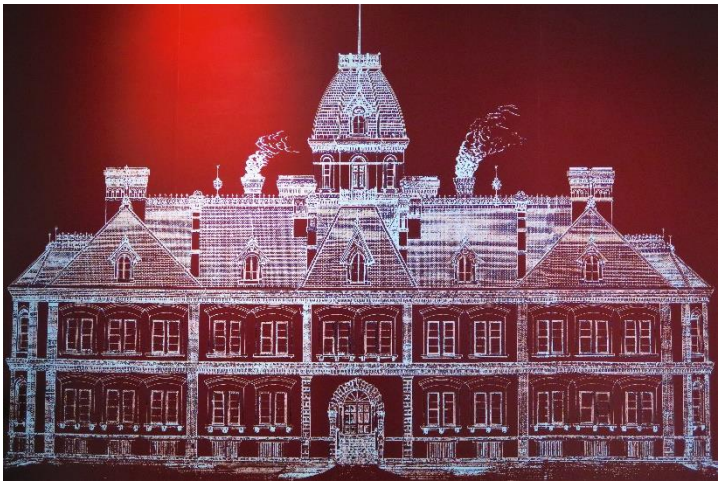
札幌グランドホテル滞在の旅(6 月 27 日～7 月 3 日)～その４～

山本 雅晴

5 日目：7 月 1 日（土）本日も薄曇りで時々晴れるとのことで、ホテル近辺の散策に出かけることにした。札幌散策２：① 北大植物園 ② 北海道庁旧庁舎と庭園 ③ ＪＲ駅前とＪＲタワー展望室 **本日の歩行距離：10 ㎞**

ここのホテルの朝食は和洋食バイキングと和食セットメニューのどちらかの選択で前者はメニューが豊富だが時間によっては混雑する。和食は日本庭園を眺めながらゆったりと食事ができ年寄り向きなので今日はこちらを選んだ。デザート・コーヒとしっかりと朝食をとり、ホテルから 400ｍくらいの北大植物園に歩いて出かけた。入場者はまばらでややさみしい感じがした。

14. 北大植物園のバラ園(人手不足で手入れ不足？)



15. 北海道庁旧庁舎図(現在解体修復中)

16. 旧庁舎庭園の左側の池

コンクリートの道路を悠々と！
右の池から左の池へと

17.カルガモ親子の白昼の移動

18.旧庁舎庭園の右側の池

夕食をホテルの和食ダイニングで早目に済ませ、JR 駅のタワー展望室の夜景を見ることにした。38 階/160ｍで 1998 年の冬に上ったＴＶ塔の 90ｍよりはるかに高い。快晴ではなかったが札幌の街の様子がよく分かった。

今日、北大植物園の温室も見たが、予算不足と人手不足のせいかやや侘しい感じがした。広大な面積の植物園を維持するための抜本的な改革が必要と思われる。

19. JR タワー展望室からの眺め

2023-7-19

札幌グランドホテル滞在の旅(6 月 27 日～7 月 3 日)～その 5（最終回)～

山本 雅晴

6 日目：7 月 2 日（日） 朝晴れていたので 6 時過ぎから 30 分ほど時計台・大通り公園を散歩したのち、朝食をとった。今日は札幌の郊外の芸術の森に出かけることにした。ここには 2009 年 6 月に訪れている。ここには本郷新・佐藤忠良らの札幌ゆかりの彫刻家や国内外の彫刻家が手掛けた多数の彫刻作品が木々の間に配置されている野外美術館である。この他染色・織・ガラス・陶芸・木工などの工芸関係の施設や絵画・彫刻アトリエなどがあり、教育育成の機能も有している。移築された有島武郎旧宅もあり、内部も見学した。

20. 札幌芸術の森

21. 札幌芸術の森/有島武郎旧邸

昼過ぎに芸術の森からバスで約 15 分の地下鉄駅の真駒内駅に戻り、そこから地下鉄南北線で約 15 分の大通り駅に来て、近くの人気の寿司屋で昼食をとった。そこで、今日は「半夏生」だからたこがお薦めですといわれ新鮮なたこのにぎりを笑味した。半夏生にタコを食すということを初めて知った。積丹から直送の新鮮な各種のネタの寿司を割安で味わえた。札幌最後の夕食もここでとった。 **本日の歩行距離：8 km**

7 日目：7 月 3 日（月） 名残惜しいが今日は帰宅の日となった。前日と同じように 6 時過ぎに 30 分ほど大通り公園を散策した。朝食は和洋食のバイキングで時間をかけてゆっくりと味わった。ここのホテルは約 500 室と大きく、時間帯によっては混むが種類も豊富で味もよく吟味されている。しかし、最近利用した他の国内のホテルの洋朝食バイキングなどにチーズが出されていない。円安と価格高騰のせいなのか？

重いキャリーバッグの荷物を配送依頼し、11 時前にホテルをチェックアウトし、JR 札幌駅から新千歳空港へ向かった。新千歳空港発 14：30 ANA66 便 → 羽田空港着 16:15 で船橋の自宅に 17 時半ごろ無事帰宅。幸いなことに出発時には腰痛で鎮痛剤服用の女房は帰着時にはほとんど回復していた。**本日の歩行距離：8km**

エピローグ：今回の旅行を通じて感じたこと！「北海道立近代美術館」が改修工事で休館になっていた！

・昔、“ミュンヘン・サッポロ・ミルウォーキー”というサッポロビールの宣伝文句をよく聞かされた。そのミュンヘンには 2012 年 10 月に行き、そこで 3 泊して美術館・文化施設・教会・ビアガーデンなどを訪れた。その時の印象から現在の札幌の街と比較する。札幌の人口約 200 万、ミュンヘンの人口約 150 万街並みの整備や公園・緑化・清潔度などは両者とも OK だが、歴史の差にもよるが、美術館・博物館・文化的レベル(音楽・遺跡など)の差が大きい。ミュンヘンの美術品などを一定期間借用して「名古屋ボストン美術館」のような運営で企画展示をして文化的レベルの底上げが必要と感じた。オリンピック開催ばかりでは能がない！

2009-6 訪問の国立滝野すずらん公園のブルーポピー